事業番号

0066

平成29年度行政事業レビューシート( 厚生労働省 )														
事業名	実践的な手術手技向上研修事			<b>業</b>		担当部	吊庁	医政局			作月	<b>戊責任者</b>		
事業開始年度	平月	戈24年度		終了 )年度	終了予定	なし	担当	課室	医事課	医事課			貞治	
会計区分	一般的	会計												
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	_						関係する通知		革特区に係	「明日の安心と成長のための緊急 革特区に係る臨時提案等に対す 年6月2日構造改革特別区域推済		る政府の対応方針(平成22		
主要政策・施策	_							経費		その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度以 内)														
	現在は一部の大学で限定的に行われているサージカルトレーニングの取組について、「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」を踏まえて、より多くの医師が参加し、その手術手技の向上につなげられるものとするため、他大学や医療機関の医師を含めて受け入れる取組を支援するとともに、レーニングの効果や運営上の問題点等について整理・検討を行う。 (委託先) 医科系大学								ドライン」を始また 援するとともに、ト					
実施方法	委託•	請負												
				26	6年度		27年度		28年度		29年度	30	年度要求	
		当初予			45		46		45		45		91	
	予算	補正予												
**	の状	の状 羽左鹿る鍋地し		_			_		_		_			
予算額 • 執行額	況	予備費等		-		_		_	_					
(単位:百万円)		計			45		46		45		45	91		
		 執行額		44			43		45					
	執行率(%)		<b>1行率(%</b> )    98%			93%		100%						
	当初予算+補正予算に対す			98%			93%		100%					
	る執行額の割合(%) 歳出予算目		29年度当初予算		3	30年度要求				主な増減理に	#			
平成29·30年度 予算内訳	衛生関係指導者養成等委 託費				45		91		委託先数の増					
(単位:百万円)														
		計		45			91					中間目標	目標最終年度	
成果目標及び	京	≧量的な成果	·目標 		成果指標			単位	26年度	27年度	28年度	- 年度	29 年度	
成果実績	宇佐尼	団体数(目標	佐「並 年	宝饭用从	、数(目標値「	前在	成果実績	団体	7	8	8	-	-	
	度以_		但'       <del>     </del>	度以上」		刊十	目標値	団体	6	7	7	_	7	
Halla I I - m. i.							達成度	%	117	114	114	-	-	
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	: 担当課による推計													
活動指標及び			活動	指標				単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込	
活動実績	研修多	参加者数(延·	_ <u></u> べ)				活動実績	人	1,760	1,794	1,825	_	-	
	71123	- 105 H 3A\E	,				当初見込み	人	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
			算出	根拠			W 11 -11 -1	単位	26年度	27年度	28年度	29年月	度活動見込	
単位当たり		単位		コスト=Xノ	/Y		単位当たりコスト	人	25	25.6	24.1		45	
コスト	→ ロョル・コストーハント X:執行額 Y:研修参加者数					計算式	X/Y	44,000/1,760	46,000/1,794	44,000/1,825	45,0	00/1,000		

		政策	医療従事	事者の資質の向上を図ること(施策目	■標 I -2-	2)								
		施策	施策 施策大目標2 必要な医療従事者を確保するとともに、資質の向上を図ること											
破	政策	測定				単位	26年度	27年度	28年度	中間目標	目標年度			
政策評価	評	定指標	_			実績値	-	-	-	-	-	-		
	価	13K				目標値	-	-	_	_	-	_		
経			本事業の成果と上位施策・測定指標との関係											
済 ・ 財		サージカルトレーニングの取組について、より多くの医師が参加し、その手術手技の向上につなげられるものとするため、他大学や医療機関の医師 を含めて受け入れる取組を支援するとともに、トレーニングの効果や運営上の問題点等について整理・検討を行うことにより、医療従事者の資質向上 を図る。												
政再生		改革 項目	分野:	-	_									
アクシ		(第一階層) KPI		KPI (第一階層)			単位	計画開始時	28年度	29年度	中間目標	目標最終年度		
ョン	ア					成果実績	-	_	-	-	_	_		
・プ	クシ経		_			目標値	-	_	_	-	_	_		
	シ経ョ済ン・					達成度	%	_	-	-	_	-		
ログラムとの	・財プ政			KPI (第二階層)			単位	計画開始時	28年度	29年度	中間目標	目標最終年度 - 年度		
の関	ロ再 グ生 ラ					成果実績	-	-	_	-	-	_		
<b>関</b>	7		_			目標値	_	-	-	-	-	-		
						達成度	%	_	_	_	_	_		
					本事業	の成果とは	女革項目•	KPIとの関係						
		-												

		事業所管部局による点検	₹・改善				
		項 目	評価	評価に関する説明			
国費投入	事業の目的		0	近年、医療安全への社会的な関心が高まるとともに医療技 術の高度化に伴い、医師の手術手技の向上が求められてお り、医師の技術向上に資する重要な事業である。			
の必	地方自治体	、民間等に委ねることができない事業なのか。	0	遺体を活用した実践的な手技を習得する研修体制が整っておらず、国で実施すべき。			
要性	政策目的の 事業か。	達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い	0	医師の医療技術の向上及び国民に対する安全·安心な医療の提供を図るために重要な事業であり、優先度が高い。			
	競争性が確	保されているなど支出先の選定は妥当か。	-				
		競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、	無	-			
	競争性	生のない随意契約となったものはないか。	無				
事	受益者との	負担関係は妥当であるか。	0	交付要綱において補助対象、補助率等を定めており、負担 関係は妥当である。			
業の効率	単位当たり	コスト等の水準は妥当か。	0	交付要綱に定められた合理的でかつ必要な経費に限られているため、単位当たりのコスト水準は妥当である。			
性	資金の流れ	の中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-			
	費目・使途が	が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	0	交付要綱等において、真に必要なものに限定している。			
	不用率が大	きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-			
	繰越額が大	きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-			
	その他コスト	- ・削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	0	交付要綱等において、真に必要なものに限定している。			
<b>.</b>	成果実績は	成果目標に見合ったものとなっているか。	0	目標を上回る実績となっており、必要性の高い事業を引き続き着実に実施してまいりたい。			
事業の		当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果 低コストで実施できているか。	0	医師の医療技術の向上につながる事業であり、実効性の高 い手段となっている。			
有効性	活動実績は	見込みに見合ったものであるか。	0	研修の参加者は当初見込みを大幅に上回った。(平成28年 度実績:1,825名、当初見込み:1,000名)			
	整備された	施設や成果物は十分に活用されているか。	0	実施団体は実績報告の中で事業の検証を行うこととしている。			
		業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役 体的な内容を各事業の右に記載)	-	_			
点検・な	点検結果	・平成28年度において、研修の参加者は当初見込みを上回り(平成28年な手術手技の取り組み推進されたものと思慮する。 ・実践的な手術手技向上研修事業については、死体を利用した実践的な国民に対する安全・安心な医療の提供を図るために必要な事業であるこ	<b>注手術手</b> 打	支を習得させるためものであり、医師の医療技術の向上及び			
改善結果	改善の 改善の 方向性 できるよう指摘があったため、平成28年度は公募時期を例年の4月から1ヶ月早めて3月に行うなど、研修事業の改善を行っている。 研修体制の整備に努めるとともに、適正な執行を図っていきたい。						

			外部有識者の所見							
点検対象外										
		行政事:	業レビュー推進チームの所見							
	実施団体数や研修参加者数も増加 めること。	1傾向にあり、単位	当たりコストも削減傾向にあるこ	とから、引き続き、	必要な予算額を確保し、適	正な執行に努				
	ーーーー・ 所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況									
現 状 通 り	_									
			備考							
	関連する過去のレビューシートの事業番号									
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	新24-003					
平成25年度	56	平成26年度	61	平成27年度	63					
平成28年度	64									

※平成28年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。 厚生労働省 45百万円 医学部又は歯学部を有する大学が実施する 実践的な手術手技向上研修事業に対する支 援 【補助金等交付】 A. 医科系大学(8) 45百万円 医療技術や医療安全の向上を目的とした遺体 を使用した手術手技向上のための研修の実施 **資金の流れ** (資金の受け取 り先が何を行っ ているかについ て補足する) (単位:百万円)

		A.国立大学法人東北大学		B.				
	費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)		
	消耗品費	手術用品等	3.1					
<b>弗口 片</b> 冷	借料及び損料	手術機器レンタル代	1.7					
<b>費目・使途</b> (「資金の流れ」に	人件費	賃金	1.4					
	その他	講師謝金、旅費等	1.2					
が支出されている者について記載								
する。費目と使途の双方で実情が								
分かるように記載)								
<b>平以</b> /								
	計		7.4	計		0		

## 支出先上位10者リスト

A.

/ ۱.								
	支 出 先	法 人 番 号	業務概要	支 出 額(百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国立大学法人 東北 大学	7370005002147	遺体を使用した手術手技 向上のための研修の実施	7.4	補助金等交付	-	-	-
2	学校法人 東京医科 大学	7011105000935	遺体を使用した手術手技 向上のための研修の実施	7.4	補助金等交付	-	-	-
3	国立大学法人 愛媛 大学	9500005001934	遺体を使用した手術手技 向上のための研修の実施	7.4	補助金等交付	-	-	-
4	学校法人 産業医科 大学	4290805004031	遺体を使用した手術手技 向上のための研修の実施	7.4	補助金等交付		-	-
5	公立大学法人 名古 屋市立大学	8180005006604	遺体を使用した手術手技 向上のための研修の実施	7.4	補助金等交付	-	-	-
O	大学	2260005002575	遺体を使用した手術手技 向上のための研修の実施	2.5	補助金等交付	-	-	-
7	国立大学法人 千葉 大学	2040005001905	遺体を使用した手術手技 向上のための研修の実施	2.5	補助金等交付	-	_	-
8	北海道公立大学法 人 札幌医科大学	8430005004986	遺体を使用した手術手技 向上のための研修の実施	2.5	補助金等交付	_	_	_

## 国庫債務負担行為等による契約先上位10者リスト

ブロック 名	契 約 先	法 人 番 号	業務概要	契約額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者 数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (契約額10億円以上)
1	_	-	_	_		_	_	-